

# 馬獣医のよもやま話④③ 水口悠也獣医師

## ヨダレの話

水口悠也

平成24年3月 酪農学園大学卒業

同年4月 日高軽種馬農業協同組合入社

静内診療所勤務

現在に至る

“馬がヨダレを垂らしている”と聞いて皆様は何を思い浮かべますか？

ヨダレとは無意識に口から流れ出た唾液のことを指しますが、ヨダレを垂らしている状態を医学的には流涎症りゅうぜんしょうと呼びます。流涎症は症状の一つであり、その背後には重大な病気が隠れていることがあります。今回は“ヨダレ”に焦点を当て、その背後に隠れた病気を読み解きたいと思います。



写真1、流涎症の馬  
(The HORSEより引用)

普段、馬がヨダレを垂れ流している様子（流涎症）を見ることは少ないと思います。これは馬の唾液は食物に水分を与え、飲み込みやすくすることを主な目的としているので、他の動物と比べても一日の分泌量は多くないためです。したがって、流涎症が認められた場合には何か背後に病気が隠れていると考えて差し支えありません。

流涎症の要因は大きく分けて以下の2つです。

①唾液が過剰に分泌されている

②分泌された唾液を飲み込んでいない

これらを考えながら次のステップに進みます。

### ①唾液の過剰分泌

多量の水のようなヨダレを垂らしている場合には、カビに汚染された牧草を食することによる中毒性の

病気が考えられます。これは同一放牧地内で複数の馬がかかることもあり、湿気が多くなるこれからの季節に発生する傾向があります。特に治療は必要ありませんが、放牧地を変えるなど原因となるものを取り除くことが必要です。また、特に当歳馬では胃潰瘍が関与していることも多く、歯ぎしりなどの特徴的な症状をあわせて観察することが重要です。胃潰瘍を放置していると、胃穿孔などにより予後不良となる場合があるため、早い段階での獣医師による診断・治療が必要です。

### ②唾液が飲み込めない

このグループに含まれる病気の中で最も鑑別を必要とするのは喉詰まりです。喉詰まりは食道から胃へ食物が流れず、食道内に食塊がとどまる状態をいいます。喉詰まりは治療が遅れると誤嚥性肺炎や食道破裂などを引き起こし予後不良となる場合がありますので、早急な治療が必要です。口や鼻から食べ物を混じた唾液が出ているようであれば要注意です。この他にも、飲み込むための筋肉を動かす神経が走る喉嚢や食道の入り口に位置する喉頭の病気、あるいは口の中や舌の潰瘍、歯の損傷などにより、神経的あるいは物理的に唾液を飲み込めず、流涎症を示すことがあります。また、世界的にも極めて稀ですが、感染性の要因として狂犬病やボツリヌス中毒など、ヒトへの感染のリスクがある病気でも流涎症が起こり得ます。上記いずれの要因であっても、獣医師による診断・治療が必要です。

治療の必要がないものから早急な治療が必要なまでの間で、流涎症の背後には様々な病気が隠れています。“ヨダレを垂らしているけど元気あるからいいや”、と数日様子を見ると取り返しのつかないことになるかもしれません。そうなる前に一度ご相談ください。